



白河内古墳石室の壁画



第 3 号

平成 10 年 6 月 1 日 発行

那珂町歴史民俗資料館

(那珂総合公園内)

戸崎428-2 ☎ 297-0 0 8 0
FAX 297-0 0 7 5

国指定 紙本著色聖徳太子絵伝



那珂町の文化財(1)

上宮寺と聖徳太子絵伝

那珂町本米崎字松原に、浄土真宗の檀原山正法院上宮寺がある。「本願寺親鸞伝絵・下」によれば、山伏弁円は、親鸞聖人の教えの広まりに苦心を起し、稲田から柿岡(八郷町)へ布教に行く途中の聖人を襲撃しようと、板敷山で待ち伏せしたが、いつになっても聖人を捕まえることができず、最後は稲田草庵に乗り込んだが、聖人会つて害心たちまち消え、聖人に帰依して明法房と名のつたという。

その明法房が承久二年(一二二〇)に塔尾檀原谷(大宮町)に建立したのが寺の初めで、のち天正五年(一五七七)に額田に、さらに同一一年に現在地に移されたと伝えられる。

上宮寺には、明法房が使用したという頭巾、矢じり、ほら貝、親鸞に心服して折った弓などが所蔵されている。

また、上宮寺には、鎌倉時代の「紙本著色聖徳太子絵伝」一巻が所蔵され、国の重要文化財に指定されている。(大正四年指定)

この絵伝は、巻首の詞書一段と絵一四段から成る。絵は聖徳太子

の一代記を現しているが、詞書に「肝要をぬき画図にあらわして」とみえるように、入胎、誕生から上宮王家滅亡に至る一八の重要な事蹟を選んで一巻としている。絵の作風は土佐派の正系を伝え、大和絵の伝統を示している。柔らかな描線と、丹・朱・群青・緑青など原色を使った明るい彩色で、類型化した部分もあるが、全体的には温雅な画風をみせている。

寺伝によれば、この絵伝は、上宮寺一三世の住持が、石山合戦の時の功により、現在瓜連常福寺に所蔵されている拾遺古徳伝とともに、本願寺一一世頭如上人から賜わったものという。拾遺古徳伝は、上宮寺から徳川頼房に献上され、光圀によって常福寺に寄進された。また、聖徳太子絵伝は、近年の修理の際、旧軸付けの一部に後世のものながら墨書が発見され、それによるとこの絵伝の制作は、元亨元年(一二三二)と推定されている。鎌倉時代後半に盛行した太子絵伝の一本として注目すべきものであるといえよう。(参考那珂町史中世・近世編)

館内展示品解説(一)

前号まで二回にわたり、資料館内の展示品についてあらましをガイドいたしました。本号からは、各コーナーごとに展示品の解説をします。

古代 ① 土器の遍年

那珂町内より出土した縄文・平安時代にいたる土器および石製品を年代順に展示しています。

縄文土器八、十王台式土器二、土師器七、須恵器三、墨書土器二、出土場所は、久慈川流域の伊達・森戸・埴・向山遺跡や、那珂川流域の中台東遺跡などです。



町内から出土した古代の土器

土器の大きさや形・陶質などから時代の特徴が読み取れます。

縄文時代早期の土器の形は、ほとんどが底のとがった深鉢形で、文様は燃糸文・沈線文・条痕文などバラエティに富んでいます。中期になると、東京オリンピックの聖火台のモデルになった火焰土器に代表されるように豪華な形になってきます。

弥生時代の土器は、大きさは少し小さくなり、形は壺・甕・鉢・高坏などの種類があり、文様も縄文土器に比べて優美な印象を受けます。

古墳時代になると文様のない土師器が登場し、さらに奈良・平安時代には、須恵器という陶質の土器や、坏にへらや筆で文字が書かれている墨書土器も出現しました。

土器のほかに、石器時代の細石刃、縄文時代の石棒・石鏃・玉、弥生時代の石斧・管玉、古墳時代の勾玉・首飾り・剣形品などの石製品も展示されています。

次の展示品は町指定文化財(考古資料)に指定されています。(敬称略)
堀の内式注口土器(那珂三中)、土師器甕(西木倉・山田満彦)、土師器甕(下江戸・秋山護)、蛤刃式石斧(額田東郷・草野昇)、甕(額田南郷・藤堂貞雄)、蛤刃式石斧(額田南郷・藤堂貞雄)

② 水鳥が語る古代のロマン



古墳時代の舟形石棺と水鳥壁画

館内奥には映像コーナーがあります。ここでは、白河内古墳壁画に描かれた水鳥がナレーターとなり、約六分間にわたり古代の那珂町の姿をわかりやすく紹介しています。

水鳥が描かれている壁画は、町内門部の白河内古墳群(二号墳(円墳))にあります。この古墳壁画は昭和三十一年頃、地元木崎中学校職員・生徒によつて発見されました。描かれている水鳥の絵は浅い線彫りですが、東日本ではめずらしいと言われています。

古墳の壁画に鳥の絵が描かれたのは、あの世へのいのりを空を飛ぶ水鳥に託したのではないかと言われています。

この古墳は、平成九年六月町指定文化財(史跡)に指定されました。

映像コーナーの中央部に「舟形石棺」が納められています。

石棺の大きさは、全長二・六メートル、幅は中央部で〇・六七メートル、深さはほぼ一定で一四〇一六センチ前後です。

この石棺は、昭和五十一年九月、額田東郷伊達古墳群(畑地)より偶然発見されました。それは、ゴボウ収穫の際トレンチャーによって棺蓋は寸断されましたが、棺身は幸い免れました。

石棺は凝灰岩をくりぬいて作られています。棺身と蓋石から成り、全体的に舟の形に似ているところから「舟形石棺」と言われています。棺身と蓋の合わる部分には、入念に粘土が詰められていました。

人骨はすでに腐敗しており、かすかに頭骨が骨粉状を呈して遺存していたが、そのほかの部分については、かすかに棺底に痕跡が確認される程度でした。

古墳時代六世紀後半のものと推定されています。

第3回特別企画展 「わが家の秘蔵品展」開催される

「わが家の秘蔵品展」が、昨年11月1日～30日まで、26日間にわたり歴史民俗資料館で開かれました。町内の方の協力により約90点に及ぶ秘蔵品を展示することができました。

会期中の来館者は、一六五九名（町内は一〇二二名、町外は六三八名）でした。

展示公開された秘蔵品は、町内の皆さんの応募によるものだったので大いに関心が高まり、これまでになく盛り上がりがありました。秘蔵品には、それぞれの家庭で大切にされてきた品、思い出に残る品、歴史を感じさせる品などバラエティに富んだ品もありました。



展示会場風景

だ素晴らしい品々ばかりでした。

美術工芸の部41点・生活文化品の部19点、珍品・貴品の部28点 三部門に分けての展示は圧巻であり、迫力がありました。

来館者が一日に100名を越えた日が5日もあり、この展示の関心の高さを物語っています。

「こんな秘蔵品なら家にもあった。」
「二回目、パート2をやってください。」
「と言っている方々がかなりいました。」
「日の目を見ないで蔵に入ったきりになってしまっているのではないかと懸念していたので、この秘蔵品展に出せて良かった。何より先祖の供養になりました。」
「と言っているお年寄りの方もありました。」

本展の開催にあたり、秘蔵品の出品にご協力を賜りました皆様に心から厚く御礼を申し上げます。

「わが家の秘蔵品ベスト10」

カッコ内は票数

- ① 枕屏風(68)
- ・美しい・百人一首がよい
- ② 掛軸大観画(42)
- ・本物だから・筆使いがよい
- ② 金棒(42)
- ・初めて謂れの語源を見た
- ④ 花嫁衣裳(40)
- ・保存がよい・豪華
- ⑤ 本屏風(25)
- ・保存がよい・奥ゆかしい
- ⑤ ほら貝(25)

⑦ 珍しい・保存がよい
古伊万里盛皿鉢(20)

⑦ 色柄がきれい・使いたい
石の置物(20)

⑦ 鶴の形が良く出てる

⑨ 菅谷村絵地図(19)

・往時の様子がうかがわれる
掛軸斉昭書(17)

⑩ 力強い・人物の良さを感じる

来観者の感想や意見

・これ程一般の自宅に古い道具類や、水戸家にゆかりのあるものがあつたのかとうれしく拝見しました。保存に大変気を使われていてご苦労が分かります。今後も大切に保管して下さい。

(ひたちなか市 50代 男性)
・貴重な時代の資料を大切に保管されていることと、当館の運営とともに応援したいと思えます。当町の中には旧家が有り、

大切な資料が眠っていることと
思い、資料が増えることを願います。

(水戸市 40代 男性)

・早くから広報で知り非常に楽しみにしておりましたので、早々と拝見させていただきました。くすり鑑賞でき関係の方々に感謝いたします。

(瓜連町 60代 女性)

・先祖の息づかいが伝わってきそうな展示物、見入ってとても良かったです。会期中には是非子供達を連れて来たいです。小中学校の先生にPRして社会科見学、あるいは家族と行くようすすめられたらよかったです。

(町内 40代 女性)

・菅谷町にも大変時代ものがあ
り、お目にかかれぬものばかりの展示品で大変有意義でありました。

(町内 60代 男性)

一堂に集めて披露してくれたことは地域文化向上発展のためにも大変有意義で良い企画だったと思います。

(町内 70代 男性)

「出展協力者氏名」

※協力いただいた方々(アイウエオ順・敬称略)

▲美術工芸の部

赤地和夫(菅谷)・阿久津多門(田崎)・浅川泰郷(豊嶺)・芦間勝夫(田崎)・阿部克己(門部)・石田雅美(飯田)・植田英雄(西木倉)・海野義昌(北酒出)・小宅近昭(菅谷)・小貴隆夫(下江戸)・小坪正利(田崎)・小池清門(部)・小池定男(門部)・小林和子(後台)・小松茂(菅谷)・佐藤康雄(田崎)・俵博(菅谷)・寺門保治(額田北郷)・仲田義一(門部)・額田神社額田北郷)・根本幸一(北酒出)・松山正義(菅谷)・山田正(西木倉)・鷺尾瑞穂(鴻巣)

▲生活文化の部

石川孝子(菅谷)・片岡洲次郎(南酒出)・片岡武夫(南酒出)・片岡優(菅谷)・鴨志田すみ子(後台)・小澤慶伸(向山)・高島直(菅谷)・田波誠治(額田南郷)・寺門三郎(額田北郷)・中山悦男(中台)・正田宗一(飯田)・三田寺幸明(後台)・山崎和雄(菅谷)・山田正(西木倉)

▲珍品・貴品の部

会沢貞実(鴻巣)・浅川泰郷(豊嶺)・足立政一(額田南郷)・小宅近昭(菅谷)・鹿島一美(田崎)・海後宗文(本米崎)・片岡武夫(南酒出)・片岡六郎(鴻巣)・小池定男(門部)・小林茂(飯田)・鈴木とし子(額田南郷)・上宮寺本米崎)・高橋弘二(福田)・高直直(菅谷)・富岡銀二郎(額田北郷)・額田神社額田北郷)・根本誠一(南酒出)・萩谷隆文(後台)・山田正(西木倉)・鷺尾瑞穂(鴻巣)

目安箱(アンケート)より

(1)展示コーナーベスト3

●舟形石棺と映像「水鳥が語る古代のロマン」

●昨年度も同じ

●大助祭(おおすけまつり)菅谷上之町の山車(9年4月より展示)

●縄文・奈良・平安時代の土器・石器類

●昨年度も同じ

(2)入館者の感想・意見

●今まで那珂町にこんなすごい資料館があるの知らなかったです。今日初めて見て、那珂町の意外な歴史が分かりました。

(町内 専門校生)

●静かな環境の中でゆつくりと鑑賞することができました。これだけの資料が整備されているのですから、館の存在のPRをな

されたら来訪者がふえると思います。ありがとうございます。

(水戸市 女性)

●思っていたよりも、きれいだし、色々な展示品がありました。昔がなつかしくなる思いです。

(昔のくらしの展示品を見て)

●一度、来て見たいと思っており

(町内 女性)

やつと願いがかないました。スペース的にゆつたりと見る事ができ、ひとつ勉強になりました。

(町内 女性)

●正面より入り、いきなり山車が飾ってあり、新しい企画にびっくりした。大助祭のしこうも大勢の人に好まれるでしょう。

(水戸市 女性)

●町内に住んでいるのですが、はじめて子供の社会科宿題でうかがいました。とても参考になりました。

▼入館者月別・町内外別調 (4/1~3/31)

月	開館 日数	入 館 者 数			団 体 入 館 者 等
		総数	町内	町外	
4	26	415	199	216	・町新任職員研修・木崎小6年生
5	27	432	233	199	・瓜連町歴史同好会・菅谷東小3年生 ・額田小3年生
6	25	472	211	261	・オークリッジ市ホームステイ中学生
7	24	377	120	257	・埼玉県上尾市体育指導員
8	24	576	327	249	・町教育研究会研修・たいようの会
9	25	174	87	87	・額田地区高齢者いきいきクラブ
10	27	474	360	114	・五台小3年生・軽スポーツ祭り ・北海道松前町・町体協戸多地区歩く会 ・埼玉県川口市
11	26	1,659	1,021	638	・新藤電子会社・町ふるさと歩く会 ・友部町社教委員・菅谷西小3年生 ・町文化財愛護協会
12	21	85	55	30	
1	23	81	53	28	
2	24	152	57	95	
3	26	368	199	169	・栃木県都賀町・千葉県東金市
計	298	5,265	2,922	2,343	

《特別企画展のお知らせ》

平成十年年度の計画

●「光圀・斉昭・慶喜と那珂町」

水戸藩徳川家光圀・斉昭・慶喜の三人を中心に、那珂町とのかわりをたずねる。

●会期二十五日~八月九日

●「那珂町の文化財展」

国・県・町指定文化財などを中心に展示公開

●会期十一月

●詳細については、後日なか広報等でお知らせします。

ました。企画・展示物など、町報でお知らせしていただければと思います。

(町内 女性)

●私は県植物園に行く途中標識を見て立ち寄りしました。他市町村にもPRしてすばらしい施設を利用していただくようお願いいたします。

(水戸市 男性)

(3)今後の企画展の希望

●古墳・埴輪展(埴輪を飾る)

●明治以降の那珂町出身の政治家・文人・芸術家の紹介

●旧街道の地図

●地元の物産品展示

●久慈川流域の古代文化について縄文から平安期まで

●戦争についてもっと詳しくわかるように「水鳥が語る古代のロマン」のように映像にする。

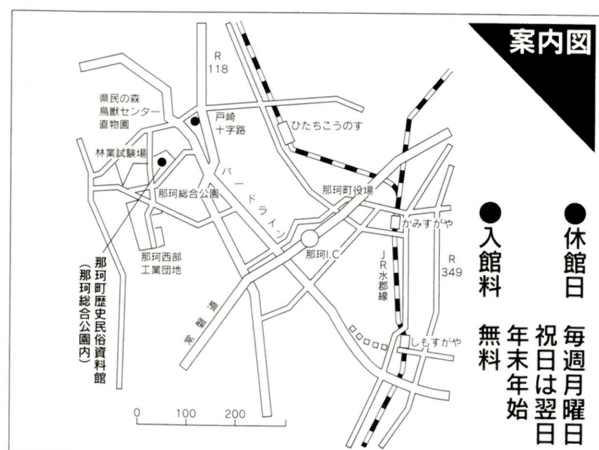
【編集後記】

本日「水鳥第三号」をお届けいたします。昨年度は特別企画展を11月と3月と二回開催することができた年間入館者総数も例年どおりになりました。特に「那珂町の民話」発刊記念展は八日間の会期でしたが大変好評を得ました。紙面の都合で記事は割愛しました。

小学校社会科の学習資料として多目的室に「昔のくらし」の展示をしました。額田小の三年生が来館し、学習した様子をまとめて資料館へ寄せていただき、ありがとうございました。

昨年四月より山車が菅谷の提灯祭りにかわり、豪華な飾りになりました。庚申講の掛軸が寄贈され、地区内の昔の行事がしのばれて貴重な資料になります。皆様のご来館を心からお待ちしております。

【事務局】



案内図

●休館日 毎週月曜日
祝日は翌日
年末年始

●入館料 無料